

会議等経過報告書

1. 件名	令和5年度第1回大船渡市立図書館協議会
2. 日時	令和5年7月20日（木） 午後1時45分～午後3時30分
3. 場所	大船渡市民文化会館（1階展示ギャラリー）
4. 出席者	委員： 藤村敏夫会長、金野晋副会長、金野洋子委員、佐々木加代子委員、 佐々木規子委員、白木澤京子委員、村上泰子委員 図書館： （市）佐藤部長、平野館長、佐々木館長補佐、菅野係長 （指定管理者）大友総括責任者、中井業務責任者、小野寺副業務責任者
会議等の内容（要旨）	
<p>1 開会（進行：佐々木館長補佐） 委員出席状況の確認。出席7名、欠席1名。</p> <p>2 委員紹介（平野館長）</p> <p>3 会長あいさつ（藤村会長）</p> <p>4 部長あいさつ（佐藤部長） 並びに職員紹介（平野館長）</p> <p>5 副会長の選任について 委員互選により、次のとおり決定。 副会長：金野晋委員</p> <p>6 議事（進行：藤村会長）</p> <p>報告第1号 令和4年度図書館事業の実施状況及び利用状況について（菅野係長説明）</p> <p>■（佐々木規子委員） 令和4年度の資料に図書館協議会の委員6人とあるが、今年はなぜ8人なのか。</p> <p>（平野館長） 図書館協議会委員は定員15名となっており、これまでの歴史を見ると5～6名の間で推移している。市議会において「もう少し人数を増やして協議会を充実させた方が良いのではないか」との意見があったことを踏まえ、今年度新たにお二人をお願いをし、令和5年度から8名体制とするもの。</p> <p>■（佐々木規子委員） 貸出状況について、昨年の資料の令和3年の人数と、今年の資料の人数が違うのはなぜか。</p> <p>（菅野係長） 今年度の資料作成時に前年度の資料と突合したところ、誤りを発見したことから、訂正させていただいた。</p> <p>■（佐々木規子委員） 昨年度の会議において、利用者登録者数の人数が累計値で出されていることについて、登録削除された方や、長い間使っていない方の分を精査した方がよいのではないかという話があったがどうなったか。</p> <p>（大友総括責任者） 今年度に関しては、累計値を採用させていただいた。令和5年度に関しては、登録利用者数の精査</p>	

をしたいと思っており、その中で実際の登録者数を改めてお出しする。

(白木澤委員)

例えばカードの有効期限、3年間利用しない人の登録は削除されるといった条項はあるのか。

(大友統括責任者)

通常運用では3年ごとに更新する形であり、貸出時に更新の時期を知らせるアラームが画面に出てくる。その時に利用者の住所や連絡先に変更が無ければそのまま更新させていただく。

正確な人数の把握の1つの方法としては、今年の4月時点までで3年間利用していない登録者を抽出して、削除するという方法がある。

(金野洋子委員)

実際の利用者数を知りたいのであれば、登録の削除とは別に、3年とか5年の未利用状況の人数を出すのはいかがか。仮に私が5年経って、本を借りる際に「あなたのカードは使えません」といわれるのは気持ちが良くない。別途、利用者状況として把握すれば良いのではないか。

(中井業務責任者)

3年ごとの更新は、住所や連絡先が変わっている場合があるため、運営上、お客様に確認しなければならないこともあり、連絡が取れる方法の確保として行っている。

小学生の時にカードを作り、高校生になって久しぶりに図書館を使う際、こちらから「以前にカードを作ってますよ」とお伝えすることで、図書館をまた使い始めるきっかけにもなる。

再発行でお客様に煩わしい思いをさせてしまうことも考えられるが、情報がちゃんと確認できれば以前に使っていたカードをまた使うこともできるので、何年使って、どこまでで削除するというのはなかなか難しいところだが、検討していければと思う。

(藤村会長)

登録者数はこのままで、ただし、この中には3年以上使われていない方がこのくらいいるという数字があれば、現在どれくらい使われているかは把握できる。この考え方でどうか。

■ **(金野副会長)**

令和3年度と比較すると、貸出の人数も冊数も非常に増えているということだが、開館日が多かったことによって増加したのか、様々な取り組みの結果で増加したのか、そのあたりどのように捉えているか。

(大友統括責任者)

基本的には、常連の利用者が多く来館しているので、開館日数が増えたことは一つの要因かとは思う。ただ、その中でも新しく登録された方や、小さいお子さんも登録もされていることから、図書館のイベントの際に、新しい利用者の拡大に繋がる状況を作れればと思う。

協議第1号 令和5年度図書館事業計画(案)について (指定管理者 大友総括責任者説明)

■ **(金野洋子委員)**

除籍についてだが、小学校の図書室の本がかなり傷んでいる。除籍の本は優先して小中学校の方に頂きたい。学校図書館ボランティアが背表紙の修繕を行っているが、それによって、子ども達が昭和50年代の本やルポルターージュもよく借りてくれるようになっている。検討をお願いしたい。

(金野晋委員)

北小学校の事例だが、ボランティアの方に本の背表紙をきれいに修理して頂いている。子ども達はきれいな本から取る。汚い本は残念ながら手を付けないという状況もあるので、学校を優先してもらえるとありがたい。

(大友統括責任者)

今年度、2万冊を除籍対象とさせていただいた。リサイクルという形でみなさんに提供できるのは

千冊程度だと思う。そのうち半分程度は教育機関向けという形で区分する。

リサイクル市は同時に行うつもりはなく、教育機関向けの日程を前倒しで行い、その後に一般向けで開放する計画としている。

■（白木澤委員）

現在、図書館が休館中のため、かもしか号を毎月使っているが、軽自動車で追加の本を持ってきてくれたので、すごく助かった。2週間に1度、図書館に通っていたのが通えなくなると残念だったが、1ヶ月間借りてゆっくり見られたので、図書館に行かなくても、かもしか号でも良いと思えるくらいだった。

高齢者の中にはリクエストカードを書くのが大変だという方もいるので、アンケートのような形で、どんな本が読みたいか、持ってきてほしいかというニーズを把握して、それに合わせて本を選んで持ってきてもらえるようだと、また違うのかと思う。

（中井業務責任者）

休館してご利用できない方へのサービスとして、本を追加して多めに持って行った。ラインナップも、できるだけ新しい本を毎回増冊して持って行った。

かもしか号のリクエストについては、間違いなくお客様にお渡しするための工程と考えている。書くのが困難な時はスタッフがお手伝いするので、気兼ねなく言っていただきたい旨はお話している。

また、題名がこの本ということでもなく、例えばガーデニングの本とか、トマトの苗の本で良いのなにかとか、鹿が出るのどうしたらいいとか、大まかなテーマでもご要望いただければ、その都度持っていくということも行っている。

ステーションごとに本棚の入れ替えとなると難しいが、月ごとのそういったお問い合わせは必ずスタッフが耳を傾け、その時なかったものに関しては、はっきりとした要望がなくても、スタッフが心得ておいて、そっと乗せておくということもある。お客様の声を聞きながら進めていければと考えている。

■（白木澤委員）

広報について、私は図書館のホームページよりは、どちらかというと市のLINEの方がすごく使いやすいと思っている。その中の「つばきっず」という子育て向け項目の中に「イベント情報」というコーナーがある。イベントカレンダーにあまり内容が掲載されておらず、あまりイベントをやっていないように見えるので、そこに図書館の子ども向けのイベントを入れるなり、ラインの項目の生涯学習カレンダーに一般向け分をのせてもらうなり、目につきやすいようにしてほしい。

（中井業務責任者）

つばきっずに関しては、私共も良いコンテンツだと考えており、担当課とも相談し、図書館の再開後にはカレンダーに入れさせていただき、情報発信を進めていきたいと考えている。早いところで、おはなしパレードとして月2回おはなし会がありますので、これは定期のカレンダーに入れ、その他のお知らせ関係に関してもイベントや情報があれば、順次、担当課と連携して情報発信に努めて参ります。

協議第2号 令和5年度図書館資料購入計画（案）について （指定管理者 大友総括責任者説明）

■（藤村会長）

購入にあたっての方針はあるか。

（大友総括責任者）

大船渡市の蔵書に関する基本的な方針が出されているので、基本的にそちらに準じている。

■（白木澤委員）

市の人口が減ってきている中で図書館の予算や金額はそのまま、学校の児童は減ってきており学校図書館の予算はあまり付かないという話を聞く。今後の予算の見通しはどうか。

(平野館長)

委員お話の通り、人口が減り、利用者数も割合でいけば減っていくことが予測されるので、一人あたりの図書数という考え方でいけば、図書費も減らしていかなざるを得ないのかと思う。ただ、それが急激なものではなくて、人口規模に応じた図書数をその都度、皆様にご相談しながら、ご意見を聞きながらやっていくことになる。人口が減っていくことに関しては、事実そういうことが予測されているので、難しい課題とは思っている。

一人当たりの税の負担も考えなければいけないので、歳入と歳出を見比べてということになっていくと予測している。

(佐藤部長)

人口の減少、少子高齢化ということで将来、相当な規模で全市町村の財政が厳しい状況になる。大船渡市でも昨年度（4年度）から持続的なまちづくりを図っていくために、財政規模を縮小するという取り組みを進めている。この取り組みは全行政事務について、庁内で様々な議論を進めていくが、当然、全市町村の行政事務の中の1つであり、図書だけでなく、あるいは普段の行政サービスも、内容によっては縮減していく必要性が出てくるものがある。

(藤村会長)

予算が縮減されてくれば、教育関係の部分も小さくなっていくことは見込まれる。その中で予算を確保していくということが必要であり、運営について、みんなで意見を出し合いませんかというのがこの場である。

(白木澤委員)

本に親しむ時期が小さい頃にあるのではないかと思う。財政的なものは分かるが、子ども達に一番身近な学校の図書館に、もう少し良いものを置いてもらえるように良い。いろいろ難しいとは思いますが、子ども達にとって気持ちが一番豊かに育つ時期に、身近に本があるという環境を整えてもらえるとうれしい。

(金野副会長)

非常にありがたいご意見を頂戴した。学校図書館は、陸前高田の方が非常に充実している。大船渡はこれしかないのかというのが実情。予算の配分で、大船渡は教材費に図書費も含まれるということだが、高田は別々であり十分に使えるという形になっている。学校図書館は、陸前高田と比べると新しい本が少ないということがあるので、ぜひ来年度以降はそのあたりをもう少し考慮していただけたらありがたい。

■ (金野洋子委員)

図書の十分類でどの分野が一番借りられているかが、資料に出てきていない。その実績を踏まないでこの予算配分するのはと思うところもある。一般の市民がいったい何を借りているのかとなったときに、パーセンテージだけを求めて、必要としない自己満足の充足はちょっととも思う。

学校で不足しているのは、例えば地理です。地名が変わっても一冊の本が高いので本は揃えられない。そうした時に、図書館が児童と社会で分類を区別せずに、歴史、地理のところでも最新版の地理情報を図書館に行けば分かるんだというようにしてもらえば、あえて学校では地理の本は買わなくてもよくなる。

学校と図書館を連携するという考えであれば、もう少しその辺を柔軟に、あまりパーセンテージにとらわれないで、不足しているものは図書館で購入するという方法もある。

個人で買えないもの、学校で買えないものを揃えてもらう、文庫本でも字が大きくなっているものを揃える、買い替えるなど、少し視点を変えて、この分野にいくらではなく、少し柔軟に、パーセンテージを気にしないで、図書館が必要なものを買う、というようにはいかないのか。

(中井業務責任者)

本の購入については私達も責任をもって対応している。割合の決め方は、前年度の利用率であるとか、本の動きであるとか、そういうところも確認し、除籍などの状況も反映している。今年度の休館中に除籍作業を行ったが、大幅に除籍をする予定の分野については、あらかじめ予算に折り込んで計画している。また、分野に関しても、社会でいえば、歴史の分野、地理の日本分野・世界分野、人物

史などまで細かく見ている。また、学校の授業で使う本については、一斉に授業のタイミングが重なり不足する可能性も見据えて計画に織り込んでいる。

(藤村会長)

図書館の方々は現場も分かっており、そういった要望もあることも分かりながらの運営のため、その辺りは一般の方々より手をかけてくれていると思っている。今後も、そのようにやっていただくように、みんなでやっていきたいと思う。

学校予算については、図書費は市町村によって出し方が違う。大きい市は財政が大きいので、やりやすいが、大船渡市の場合は難しい。学校図書館はなかなか充実させることができないので、市立図書館の本を借りながら学習していく。要望を挙げるなど、なるべく取り上げてもらうようなことをやって行ければと思う。

(佐々木館長補佐)

実際に閉校や統廃合に関わったことがあるが、閉校した学校の図書だけでなく備品について、欲しい学校を募り、閉校した学校から今ある学校へ再利用している。おそらく、いま閉校してる学校に残っている図書は、希望のなかった物と思う。これからの統廃合の学校に関しては、再利用が可能な図書があるため、学校教育課も有効活用が出来ればと考えていると思う。

■ **(金野洋子委員)**

大船渡市は「何か本を作ったらぜひ図書館に」という呼びかけが少ないような気がする。

末崎中学校の図書館に、郷土の貴重な本、もう今後絶対発行されないだろうなという本がたくさんある。将来、大中と末中が統廃合になったときに、そういうものを地区公民館が面倒見るべきなのか、図書館が郷土の資料として保存するべきなのかというところの方向性を少し決めていかないとけない。

(中井業務責任者)

郷土資料は非売品も多くあり、私達も新聞等見ながらそういう情報があればすぐに連絡して寄贈していただけるようお願いをしている。地域資料について広く求めているということを広報していく、というところは大事と思うので、ご意見を参考に進めたい。また、学校統合の際には相談していきたい。

(金野洋子委員)

一ボランティアの立場では、こうしますとは言えないので、貴重な本については、学校の先生方が公民館、教育委員会と相談して図書館に寄贈するかどうか判断をお願いしたい。その際に、市立図書館さんが来て本の価値を判断してもらえれば、いくらかでも良い方向に持っていけるのではと思っている。

(藤村会長)

あとは、学校長と市の間で協議をしながら、失われる書籍が無いようにすることも必要かと思う。よろしくをお願いしたい。

7 その他

市立図書館「休館中の臨時窓口」利用実績 (佐々木館長補佐説明)

8 閉会 (午後3時30分)